

県指定史跡

金田瓦窯跡発掘調査現地説明会資料

— 前庭部の調査 —



平成 30 年 12 月 12 日(水)

南部町教育委員会

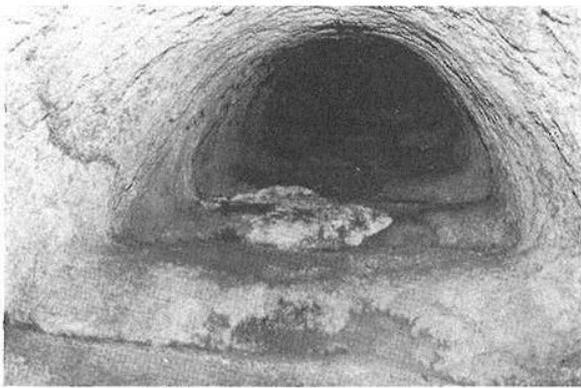
○概要

西伯郡南部町金田字山楨の丘陵裾部に位置する古代の瓦窯跡です。昭和15年頃発見され、伯耆町大寺廃寺の創建時の軒瓦が出土したと伝えられています。花崗岩の地山を掘りぬいてつくられた地下式の構造で、天井部に至るまで極めて保存状態良く残る県内唯一の瓦窯跡として、昭和51年に県史跡に指定されました。

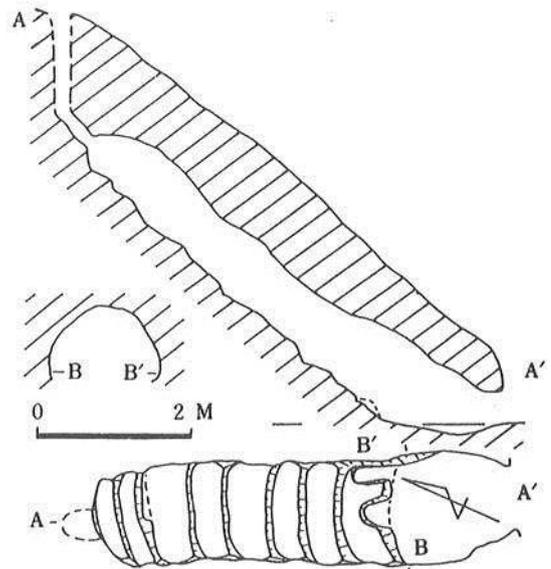
平成26年頃より開口部の崩落が進みはじめたことから、地域の宝である金田窯跡を適切に保存、保護していくことを目的として、窯の構造や性格及び操業時期を解明するための調査を実施しています。

平成29年度には窯本体の3次元測量を、平成30年度は前庭部の発掘調査を行っています。

○昭和50年代の瓦窯

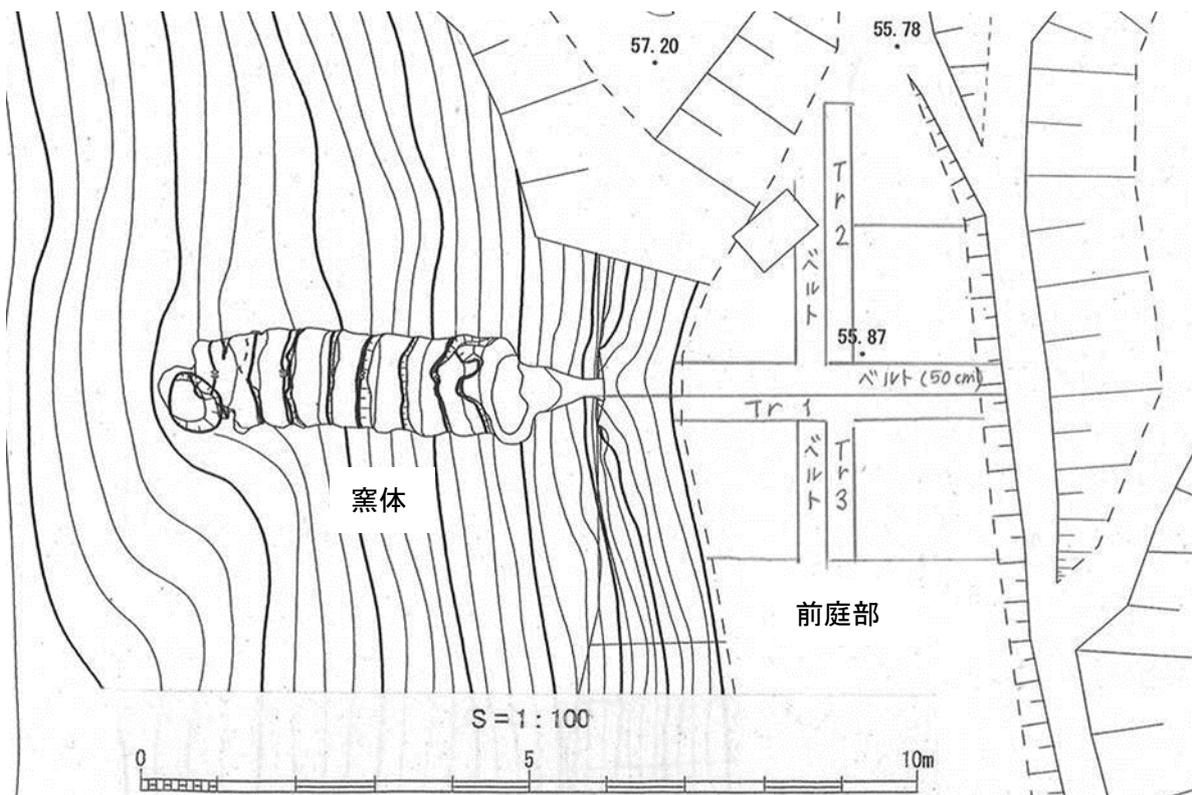


金田瓦窯体内部の様子



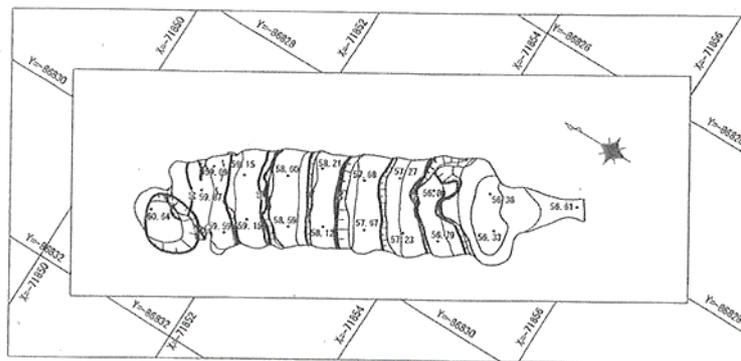
金田瓦窯遺構図

○平成30年度発掘調査区



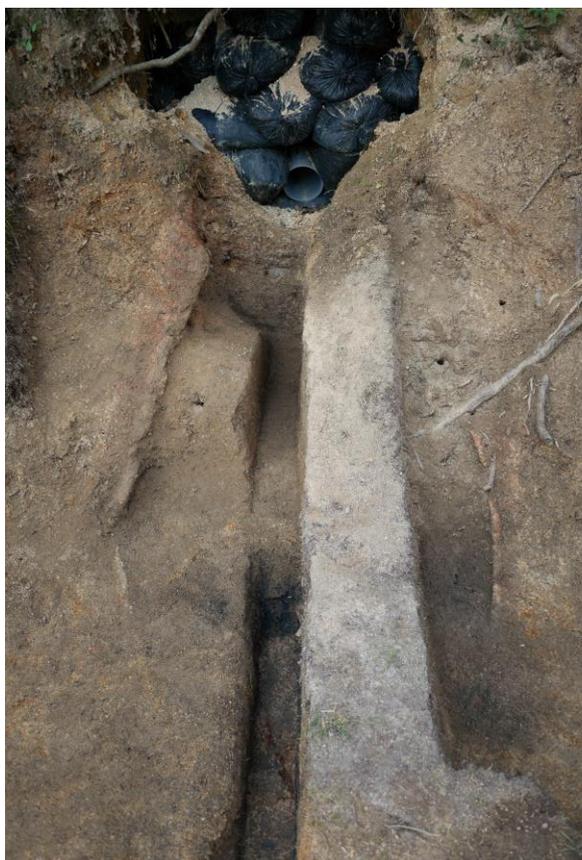
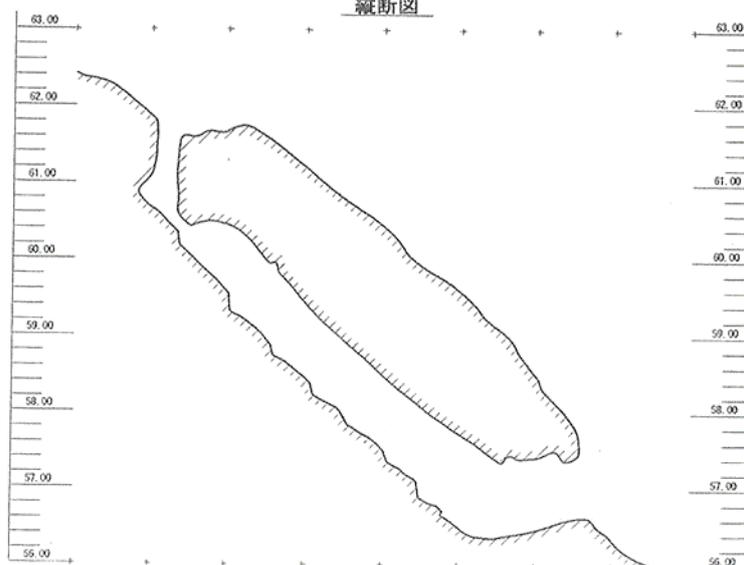
○平成 29 年度遺構測量図面

平面図



S = 1 : 100

縦断面図



窯体焚口部分の検出状況（南から）



窯体床面と焚口炭堆積状況（南西から）



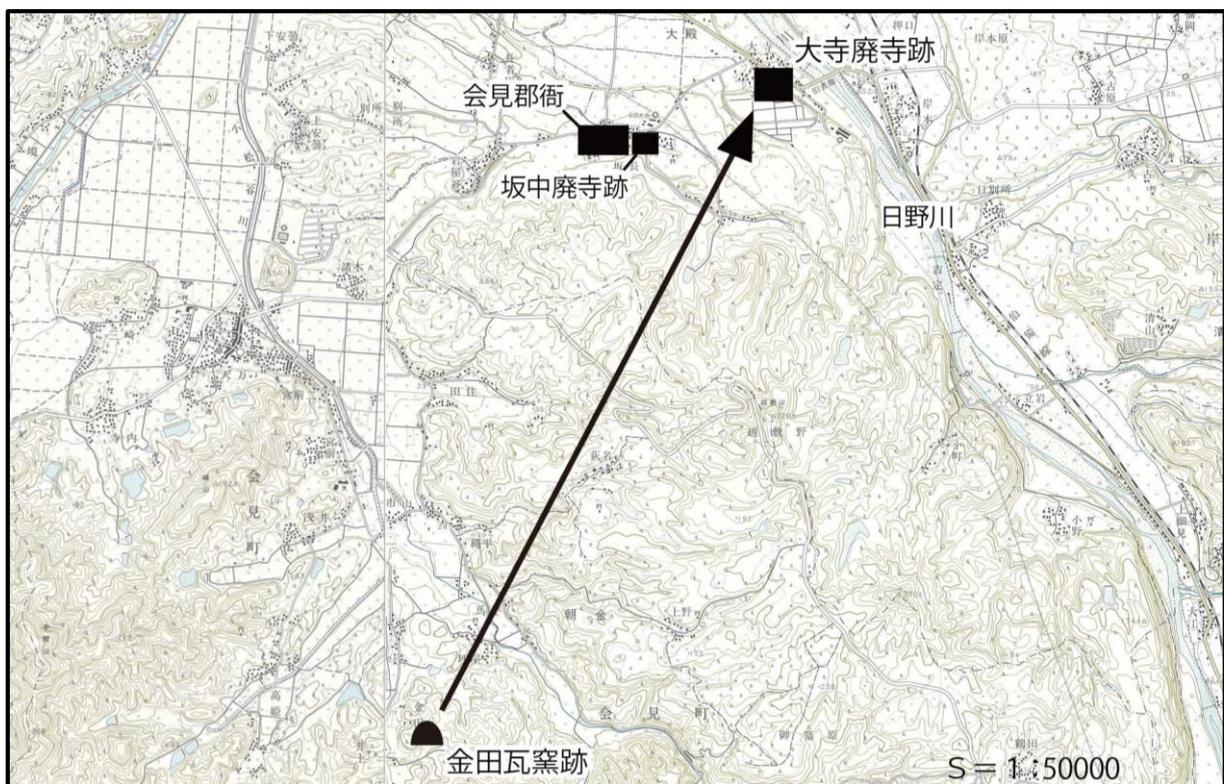
前庭部造成状況（西から）

○調査成果

- ・操業に関わる作業場(テラス)が確認され、前庭部の具体的な様相が明らかとなりました。
- ・窯の焚口を良好な状態で確認することができました。窯体の規模や構造を復元するうえで重要な成果といえます。
- ・窯の操業時期は、出土した瓦から飛鳥時代の7世紀後半であることが分かりました。窯体の床面は少なくとも3面確認され、前庭部も造成して作業面をかさ上げするなど長期間にわたり操業されたと考えられます。
- ・従来、伯耆国会見郡の白鳳寺院である大寺廃寺と同じ軒瓦が採集されたことが伝えられていましたが、その瓦の所在が不明のままでした。

今回、大寺廃寺と同じ重弧文軒平瓦などが出土したことにより、大寺廃寺に供給していたことを発掘調査で実証することができました。

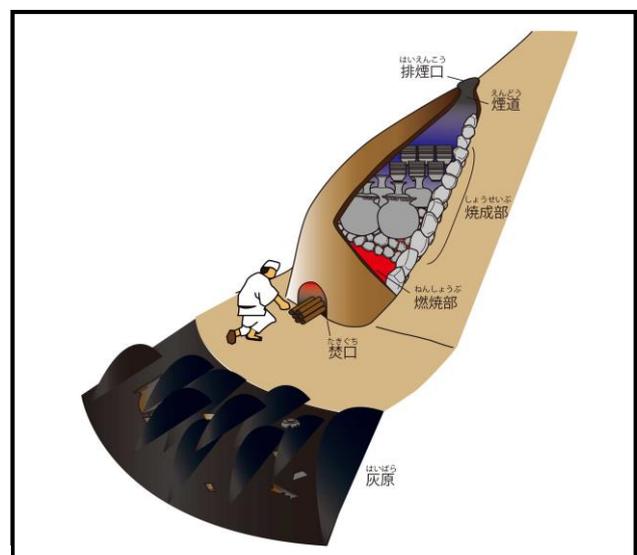
- ・鳥取県内で瓦窯の全容が分かる事例は他にはなく、古代の窯業生産を解明するうえで極めて重要な調査成果といえます。



○窯まめ知識

窯体の基本的な構造には、燃料材の投入口である**焚口**、燃料材を燃焼させる**燃焼部**、製品を窯詰めし、焼成する**焼成部**、炎や煙を窯外に排出させる**煙道**、**排煙口**などがあります。

その他に窯体の周辺部には操業に関わる様々な施設が置かれ、今年度調査した前庭部は焚口前面の作業スペースで、覆屋や排水溝、作業通路などが見つかることがあります。



窯のイメージ図